# 多文化共生とジェンダー

# ~地域日本語教室を事例として~

株式会社ジャパンリビングサポート 取締役 三重県地域日本語教育コーディネーター

早野 実花

現在、日本には多くの外国人が生活しており、その数は年々増加している。彼らが自分の住んでいる地域で、生活に必要な日本語を学ぶことのできる場が「地域日本語教室」である。地域日本語教室では、日本語だけでなく文化や生活、地域の情報を学ぶことができ、地域の日本人住民がサポーターとして参加しているため、交流の場としても大きな役割を果たしている。そこでは、日本人も外国人も関係なく、同じ目線に立ち、対等な立場で向き合うことを大切にしている。つまり、地域日本語教室(以下、日本語教室と称する)は多文化共生の最前線であるともいえる。

私は、日本語教室でコーディネーターの一人として運営に あたっているが、ここでは、日本語教室で活動する中で見えた ジェンダー・バイアスについて考えたい。

私が活動している日本語教室は、小学校の教室を会場としており、教室内にいくつかのグループを作り、同じ空間で多様な人が同じ時間を過ごしている。予約制ではないため、学習者とサポーターのマッチングはその場で行う。マッチングはサポーターにゆだねられており、学習者に何を学びたいかを聞き、その日の内容を決めていく。

過去にあったマッチングの一例をあげると、未就学児の子どもを連れてきたフィリピン人女性と、子どもがいる50代女性サポーターのペアがあった。このマッチングは、フィリピン人女性は日本での子育てについてサポーターに聞くことができるからという理由である。実際は、フィリピン人女性は子育でについて話がしたいとも限らないし、子どもがいるからと言ってサポーターに子育て経験があるとも言い切れない。にもかかわらず、女性同士をマッチングしてしまったのは子育での話をしやすいだろうという思い込みからである。共通の話題があると話が弾むことを期待してのマッチングであるが、そこには無意識のジェンダー・バイアスが働いていたといえる。

後日、同じフィリピン人女性が勉強に来た時には、女性 サポーターがいなかったため、70代男性とマッチングした。 教室が終わった後、彼に話を聞くと、とても会話が弾んだと いう。少し前から料理教室に通い始めていた彼は、フィリピン料理のレシピを教えてもらったそうだ。この事例から、思い込んだジェンダーとしての役割にとらわれず、マッチングすることの重要性に気付いた。

別の日本語教室でコーディネーターをしている人に話を聞いたところ、他の教室でも同じようにマッチングが行われている場合があるそうだ。日本語で話をすることを目的としている教室であるため、共通の話題がありそうな相手を選んでしまいがちになるが、その中にジェンダーの問題が内包されていることを忘れてはいけない。

本来の日本語教室の目的を考えると、できるだけたくさんの人と関わることが大切なのではないだろうか。気を利かせたつもりのマッチングにジェンダー・バイアスが働いており、多文化共生の最前線であるべき日本語教室で、多文化共生の芽を摘んでしまっている可能性がある。多文化共生に関わっていると、外国人と日本人という枠にとらわれてしまいがちであり、その中にジェンダーの問題があることが見えづらくなる。国籍や民族だけでなくジェンダーも包摂してこそ、多文化共生であると信じている。



# I n f o r m a t i o N

## 事業報告

2023 年度 賛助会員の つどい (公開)

# アメリカ黒人女性史から読み解く政治家バーバラ・リー映画『権力を恐れず真実を一米国下院議員バーバラ・リーの闘いー』 上映と講演 講師 岡田 泰弘氏(中部大学講師)

10月1日(日)名古屋国際センターにて、上記の賛助会員の集いが開催された。2001年9月11日同時多発テロ直後、合衆国議会が大統領に対して武力行使を認める決議をした際、ただ一人反対票を投じたのが下院議員バーバラ・リーだった。そのバーバラ・リーの公的な活動や私的な生活を描いたドキュメンタリー映画『権力を恐れず真実を一米国下院議員バーバラ・リーの闘いー』を今回上映。上映前に、この映画の上映に尽力された柳澤幾美さんから、アメリカの政治状況、重要な登場人物などの説明があった。柳澤さんはバーバラ・リーが一人反対票を投じたときに感銘をうけ、アビー・ギンズバーグ監督がバーバラ・リーのドキュメンタリー映画製作中から日本での上映に向けて奔走された方である。柳澤さんの詳しい事前説明によって映画理解が深まったのは言うまでもない。

映画は、バーバラ・リーが反対票を投じたときの様子を 描いたところから始まる。アメリカの国民感情が多発テロ に対する報復に燃えているときに、武力行使に反対票を投 じることは議員としての政治生命はもちろん、命の危険も伴 うものであった。上院下院含めた 535 人の議員中、ひとり 反対票を投じるためには、何があってもひるまない覚悟と ガッツが必要である。映画をぜひ見ていただきたいので、 詳しく語るのは控えておくが、私自身の印象に残った部分 の一部をお知らせしたい。二度目の DV (家庭内暴力) 夫と の離婚後、二人の子供を抱えて生活保護を受けつつ、ミル ズ大学に通っていたこと、またミルズ大学にアフリカ系アメ リカ女性として初の米連邦下院議員シャーリー・チザムが 講演に来たこと、その結果バーバラ・リーはチザムに感銘 を受けて彼女の選挙陣営を手伝うことになったのである。 チザムというロールモデルを得たリーが政治の世界に踏 み出すことになった契機である。生活保護を受けつつ、二 人の子供を育てながら大学に通うという生活そのものが闘 いの、その最中に出会うべきひとに出会ったのである。

もう一つ強く印象に残ったシーンは、カリフォルニア州オークランド選挙区にバーバラ・リーが帰還したときのことである。リーが一人正しい選択をして誇りに思うと選挙民は

熱狂的に歓迎した。もちろん多くの迫害を受けたバーバラ・ リーではあるけれども、理解を示す人たちも存在するのだ と心強く感じた。

上映後、岡田泰弘さんは、アメリカ黒人女性史から政治 家バーバラ・リーを読み解いてくださった。なぜ、彼女は議 会の軍事力行使権限に反対したのか。キング牧師の非暴力 の思想の影響、DV サバイバーとしての個人的な体験が政 治的な意味を持つことなどを指摘された。また、議会でも マイノリティであるアフリカ系女性議員として、社会的・経 済的正義の実現のためのケアの倫理などが、彼女の政治 活動の中心にあることを提示された。彼女の生活体験の複 雑さを理解するために、人種、階級、ジェンダー、ネイショ ン、年齢など多様な数々のカテゴリーが相互に関係し人の 複雑さを形成しているというインターセクショナリティとい う概念も紹介された。既存の政治システムの中で周縁化さ れてきた人々のニーズにきめ細やかに応答することが彼女 の政治立案の中心にあり、その視点はアメリカ国内にとど まらず、グローバルな視点も含まれていることも明らかに された。

司会をしながらも、上映中何度も頭をよぎったのは日本の政治の現状と課題である。同調圧力の強い日本で一人 NO と言うことの難しさを感じつつも、バーバラ・リーの生きる姿勢が私達に訴えるものを確実に受け取った気がした。

(参加者数:55名) 武田 貴子(東海ジェンダー研究所理事)



### 参加者のアンケートから

映画と岡田先生の話から、既存の 政治システムの中で周縁化されて きた人々がまとまって真の平和な 世界をめざしていきたいと強く思 いました。 ウクライナ戦争の今、改めて人々 に広く見て考えてもらいたい。 「前に進み分岐点で立ち止まって、 皆が来るのを待つの」 バーバラ の名言だと思います。個人に目を 向け個人から出発する政治。日本 の全体主義に風穴をあけていこう と思います。



2023年7月9日(日)、2022年度の個人助成受託者の報告会が、本研究所のセミナー室で開催されました。完全対面で行う報告会は2019年以来の4年ぶりのことで、22名の参加者を得て行われました。増加気味のコロナ感染に配慮し、換気を確保しつつ冷房併用で行いました。

西山代表理事の挨拶に続いて、第1報告者 武内今日子さんによる「2000年代日本におけるXジェンダー/ノンバイナリー概念の受容史」から始まりました。出生時に割り当てられた性別とは異なるジェンダーを自認する人が、こんなにも私たちの身の回りに多く存在し、あろうことか彼らはそれを障がいとして封印されてきたのです。武内さんの詳しい調査は、非二元的なXジェンダーの歴史を明らかにして啓発的でした。博士論文をベースにした発表で良くまとまり分かりやすいのですが、時代区分が1990年以降の10年区切りであり、その必然性について若干議論になりました。今後は受容史を踏まえて、Xジェンダーの人々の生きやすい社会構築についても取り組んでいただけたらといった意見もありました。

第2報告者の重松美有紀さんは、「19世紀半ばのフランス公教育における知とジェンダーの関係の再検討」と題して、主としてジョゼフィーヌ・バシュルリーの教育思想と実践を紹介されました。先行研究の少ないフランス初等・中等教育の状況を知る良い機会でした。バシュルリーに関しては、書簡集が1848年に既に刊行されているという事実からだけでも、大いに興味をそそられる女性です。一次資料の解読を時代の文脈に沿って行うことは難事ですが、緻密に積み上げられた研究成果を踏まえ、やり遂げて下さることを楽しみにしています。

後半は石黒安里さんの「ユダヤ教とLGBTQ:現代アメリカ社会における挑戦」と題し現代アメリカ社会をフィールドに行われた調査研究です。LGBTQに開かれたユダヤ教の礼拝会堂(シナゴーグ)がアメリカに誕生して今年で50周年という大きな節目での報告でした。そのことから、アメリカにおけるLGBTQの歴史の長さに驚

くことにもなりました。

実は本報告会に思いがけなくも東京外国語大学の後藤 絵美さん(『LIBRA』No.77の巻頭言執筆者)が参加して下さ いました。イスラム研究者の立場から、LGBTQの人々に対 する宗教者側の寛容性について質問を投げて下さり、わが 国のような宗教色の薄い環境に身を置く者としても考えさ せられました。LGBTQの人々と聞くとトイレ問題がまず浮 かびますが、信教の自由も切実な問題に違いありません。

最後は現在ノースウエスタン大学大学院に留学中の 齋藤葵さんによる「1920年代から1960年代の遊郭、赤線、 また歓楽街の女性から見る日本の福祉についての研究」

で、日本の公娼制度という重いテーマを英語で発信しようとしています。彼女はそうした場にある女性同士のネットワークに注目し、新吉原女子保健組合運動と機関紙『婦人新風』を中心に、熱のこもった発表をしてくださいました。 
こちらも例年にはない参加者をお迎えしていました。 
齋藤さんにとってはテーマの近い先輩研究者、それも同じくこの東海ジェンダー研究所から助成金を獲得され単著を出版された名古屋大学ジェンダーダイバーシティセンターの林葉子さんが、コメントを下さいました。 
や辛口のコメントでしたが、博論をめざす齋藤さんには大切なポイントであったと思います。 
公娼制度を問うのであれば、女性たちのジレンマにさらに切り込む必要がありそうです。

事務局の周到な準備もあって、その後の数日間どなたからも感染の報告はなく、安堵しました。それでは、報告者のみなさまからの投稿をお待ちしています。

小川 眞里子(東海ジェンダー研究所理事)



# InformatioN

## 事業報告

### ■ 2023年度 研究助成受託者の決定

### 個人助成 5名(応募総数38名)

小林 亜伽里	西洋文学史上最初の女性の職業作家、クリスティーヌ・ド・ピザンの著作
(慶應義塾大学大学院文学研究科後期博士課程一年)	『運命の変転の書』(仏・1403年)におけるトランスジェンダー的著者性の分析
<b>塩田 潤</b> (神戸大学大学院国際協力研究科·部局研究員)	アイスランドにおける1990年代の育児休業論争についての研究 一女性同盟の政治戦略に着目して一
松本 祐生子 (早稲田大学ロシア東欧研究所招聘研究員)	ロシア=ウクライナ戦争とフェミニスト運動
<b>牧野 良成</b>	1980年代の女たちの三里塚闘争
(大阪大学大学院文学研究科博士後期課程)	現地女性と支援女性の間の交流および共同行動はいかに展開されたか
中原 理沙	米国の人種的マイノリティ女性と科学教育:
(アイオワ大学教育学研究科博士課程)	1930-1940年代のスペルマン・カレッジに焦点を当てて

#### 団体助成 2団体(応募総数5団体)

「越境とナショナリズムの再考」研究会	越境する記憶の中の<語る女性>と<語られる女性>に関する共同研究 一東アジア近現代文学作品における女性のナショナリズムの内面化―
学術環境研究会	キャンパス・セクハラ法整備に向けての問題分析: 法・政治理論枠組みの構築に向けて

# お知らせ

### 2023年度 ジェンダー問題講座

日程:2024年1月20日(土) 13:30~16:00

講 師:武田宏子さん(名古屋大学大学院法学研究科教授)

会場:東海ジェンダー研究所 セミナー室

詳細が決まりましたら、チラシやホームページでもお知らせします。

# 賛助会員を募集しています。

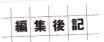
賛助会費 年間 一口 1,000円

振 込 先 郵便振替口座 00820-0-77338 公益財団法人東海ジェンダー研究所 (振込手数料は当方負担ですが、2022年 1月より、現金での振込には別途手数料が かかります。)

#### 他行からお振込みの場合

銀 行 名 ゆうちょ銀行 店 名 〇八九 預金種目 当座 口座番号 0077338 (振込手数料はご負担ください)

- \* 会員の皆様には当研究所の年報『ジェンダー研究』や ニューズレター『LIBRA』、講演会などの事業のご案内を お送りします。
- \*当研究所は公益財団法人の認定を受けており、会費及び寄付については税法上の優遇措置があります。



多文化共生の最前線である日本語教室でのジェンダー・バイアス。なかなか気づかない視点だと思います。個人助成受託者報告会も賛助会員のつどいも、久しぶりに対面のみで行うことができ、盛況でした。ご参加くださった皆さま、ありがとうございました。



### 公益財団法人 東海ジェンダー研究所

〒460-0022 名古屋市中区金山1-9-19 ミズノビル6F TEL 052-324-6591 FAX 052-324-6592 E-mail info@libra.or.jp https://libra.or.jp/